

[成果情報名]バレイショ「アイマサリ」の4月収穫に適する種いも

[要約]早掘りマルチ栽培においてバレイショ「アイマサリ」を4月下旬に収穫するための種いもは、単収 300kg/a 以上確保でき、塊茎の皮剥けもなく収穫できる一期作産が適する。また秋作産温蔵種いもは、収量において一期作産種いもと遜色ない。

[キーワード]バレイショ、アイマサリ、種いも、早掘りマルチ栽培

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・馬鈴薯研究室

[連絡先](直通)0957-36-0043

[区分]いも類

[分類]指導

[作成年度]2019 年度

[背景・ねらい]

長崎県のバレイショは、トンネル栽培の減少によって4月の出荷量が減り、5月中下旬に出荷が集中しているため、4月出荷の割合を高めるための技術確立が求められている。本県が育成したバレイショ「アイマサリ」（長崎県育成、2017年品種登録出願公表）は、早期肥大性がある（坂本ら 2013年）ことから4月出荷に適すると考えられる。4月に収穫するためには、2月中下旬に出芽する必要があるが、この時期に出芽すると晩霜害に遭う可能性があるため、現地では防霜対策としてべたがけ被覆を行っている。また、使用する種いもによって生育の様相が異なる（向島ら 2004）ため、種いもの来歴は特に重要である。そこで、べたがけ被覆を行った上で、「アイマサリ」の4月収穫に適する種いもの来歴について検討する。

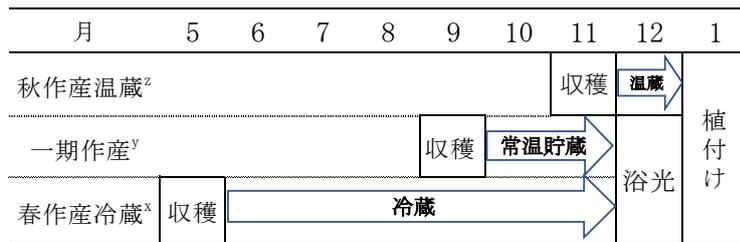
[成果の内容・特徴]

1. 一期作産種いもは、長崎県農林業基準技術（長崎県農林部 2019）の早掘りマルチ栽培での単収目標値 300kg/a 以上を確保でき、塊茎の皮剥けも見られない（表 1、写真 1）。
2. 秋作産温蔵種いもは、単収 300kg/a 以上を確保でき、上いも平均重も重くなるが、塊茎の皮剥けがみられる（表 1、写真 1）。
3. 春作産冷蔵種いもは、他の来歴の種いもに比べて出芽期は早く、茎数は多くなる。また、上いも重および上いも平均重の年次変動が大きい（表 1）。

[成果の活用面と留意点]

1. 本成果は、雲仙市や諫早市の飯盛地区を中心とした県南地域において、「アイマサリ」の4月下旬収穫に活用できる。
2. 本試験では、馬鈴薯研究室圃場において1月中旬に植付け、出芽後の3月上旬から4月初めまで PVA 割繊維不織布（ダイオ化成株式会社製）を被覆して行った。
3. 「アイマサリ」の一期作産種いもは令和2年より北海道に委託採種予定である。
4. 生育日数 55 日以下では皮剥けしやすいが、種いもとしての利用は可能である。

[具体的データ]



²秋作産温蔵は26℃で加温貯蔵。

^y一期作産は種いも到着後暗所で常温保存し、12月20日頃から植付けまで浴光。

^x春作産冷蔵は3℃で冷蔵貯蔵し、12月20日頃から植付けまで浴光。

[耕種概要]

| | 2018年 | 2019年 |
|----------|--------------------------|-------|
| ・植付け日 | 1月16日 | 1月16日 |
| ・マルチ被覆日 | 1月19日 | 1月21日 |
| ・べたがけ被覆日 | 3月7日 | 3月8日 |
| ・べたがけ除去日 | 4月2日 | 3月28日 |
| ・収穫日 | 4月28日 | 4月22日 |
| ・施肥量 | (N-P-K)14-11.2-8.4kg/10a | |
| ・栽植密度 | 666株/a(畦幅60cm×株間25cm) | |

[種いもの処理]

表1 種いもの来歴と生育および収量の関係

| 試験年次 | 種いもの来歴 | 出芽期 (月/日) | 生育日数 (日) | 茎長 (cm) | 茎数 (本/株) | 上いも数 (個/株) | 上いも重 (kg/a) | 上いも平均重 (g) | 障害 ^w いも率 (%) | 皮剥け ^v 程度 |
|-------|--------|--------------|-------------------|------------|-------------|---------------|----------------|---------------|----------------------------|---------------------|
| 2018年 | 秋作産温蔵 | 3/6 | a ^z 53 | 38 a | 1.9 b | 4.6 b | 305 a | 100 a | 1.9 a | - |
| | 一期作産 | 3/3 | a 56 | 35 a | 3.4 b | 6.5 a | 308 a | 72 b | 2.0 a | - |
| | 春作産冷蔵 | 2/22 | b 65 | 34 a | 6.0 a | 6.3 a | 341 a | 81 b | 2.2 a | - |
| 2019年 | 秋作産温蔵 | 2/26 | a 55 | 28 a | 2.4 c | 5.3 a | 333 a | 94 a | 4.8 a | 2.2 a |
| | 一期作産 | 2/16 | b 65 | 21 a | 6.1 b | 5.9 a | 316 a | 80 b | 9.4 a | 0.7 b |
| | 春作産冷蔵 | 2/9 | c 72 | 21 a | 9.3 a | 6.6 a | 292 a | 67 c | 3.1 a | 0.4 b |

^z同列異符号間には5%水準で有意差あり(Tukey法)。

^y生育日数は出芽期から収穫日までの日数。

^x上いも重には障害いもが含まれる。

^w障害いも率は二次生長、緑化いも、そうか病いも、裂開のいも数が上いも数に占める割合を示している。

^v塊茎の皮剥け程度は2019年のみ調査し、値は15個/1区の3反復平均を示す。塊茎の表面積に対する皮剥け面積が0%を無(0)、5%未満を少(1)、5~15%を中(2)、16~25%を多(3)、26%以上を甚(4)として示している。



写真1 塊茎の皮剥け程度(2019年7月11日撮影)

[その他]

研究課題名：4月出荷量増加のためのバレイショ「西海40号」の安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2018~2020年度

研究担当者：龍美沙紀、坂本悠、山田寧直、松尾祐輝、茶谷正孝